

## V. ベトナム国家大学ハノイ外国語大学への教員派遣事業

### 1. 派遣教員

派遣教員	尾山 慎	奈良女子大学研究院人文科学系言語文化学領域 准教授
------	------	---------------------------

### 2. 派遣期間

12月8日（月）～12日（金）5日間

### 3. 概要

平成26年12月9日（火）～11日（木）の日程で、ベトナム社会主義共和国ハノイ市を訪問し、ベトナム国家大学ハノイ校外国語大学東洋言語文化学部（Faculty of Oriental Languages and Cultures, University of Languages and International Studies, Vietnam National University, Hanoi）において、計3コマ（7.5時間）修士課程大学院生、約10名に対して講義を行った。

### 4. 講義概要

「日本語の語彙と漢字」（シラバスより）

#### 1、 教育目標

日本語の中でも大きな勢力をしめる漢語と、それを構成する漢字について学びます。

#### 2、 受講者に対する要求

授業は日本語で行います。日本の漢字には様々な読み方がありますが、ベトナム語と似ているものもあるので、比べながら学ぶと楽しいでしょう。

#### 3、 授業計画

- ① 日本語の和語と漢語
- ② 日本漢字の特徴
- ③ 漢字で新しい言葉をつくる
- ④ 日本語の歴史と漢字
- ⑤ 国字
- ⑥ 日本語と漢字の将来を考える

教材は、尾山が独自に作成したものを配布した（参考資料 pp=～=参照）。

### 5. 事業評価

#### 5-1 講義について

今回は、ベトナム国家大学ハノイ外国語大学の修士課程の学生がおよそ10人参加した。

ほとんどの学生が仕事をしているため、日によって出席に出入りがあったが、おおよそこの人数であった。比較的少人数のため、学生との対話を常にしつつ、日本の大学院のゼミのような形で進めることができた。

大半の学生は日本語教員志望であり、就職するにしても日系企業、通訳が多いことから主に日本語教育に資するテーマとして、語彙論と漢字について講義、討論した。すでに教師経験をもっている学生もいたが、漢字教育は日本語学習の中でも難関で、かつずっとついてまわるものであるゆえ、単なる知識の集積では対応できない要素がある。ベトナムには漢越語という中国語由来の語彙が大量に使われるので、それとの音韻の比較を通じて日本漢字音を学ぶ（教育する）コツを紹介したり、日本漢語との意味の相通、相違を通して日本語教育に活かす方法などを講義した。学生側にも、漢越語特有の漢語（日本語にはないもの）をクイズ形式で出してもらい、尾山は、各文字の訓を通して意味を類推し、答えるということを行った。ベトナム語ができないにもかかわらず比較的高得点を出したことに学生達は驚いたようだが、ここに日本語の「訓」というシステムが、日本人の漢字漢語理解の根底にあることを示し、訓が、単に音読みと並立する「読みの種類の一つ」ではない重みがあることを説明した。以上の議論を通じ、いわゆる「漢字文化圏」に共に属していた歴史を感じ、またそれゆえに両言語の教育に活かせる様々なヒントがあることを、学生達も手応えとしてつかんでくれたと思う。

## 5-2 大学間の連携について

今回は大学側が総出でサポートという体制の充実ぶりで、ことに先方学部長からは日本語学科の現状や将来の展望を詳細に聞くことができ、また当方奈良女子大学人間文化研究科大学院の現状についても情報交換をすることができた。授業にでていたのは大学院生であったが、前述のように仕事を兼務している学生が多いため、大学への往復、各種通訳、諸般の補助はすべて学部二回生の学生数名が担当してくれた（特に、院進学希望生が多かったが、おそらくそのような基準で選抜していたのだろうと思われる）。ここにも学科としての、本事業に対する真摯なサポート体制が伺え、好感をもった次第である。また、大学院生、学部生ともに奈良女子大学への留学希望を口にする者が何人かいたのも、幸いなことであった。学生との交流においては、教員との情報交換とは別に、率直なベトナムでの学生生活や日本語学習事情を伺うことができ、大変有益であった。

## 6. 学生のレポートより

学生には次のようなレポート課題を出題した。

1. 日本語を教える上で難しいことは何ですか。そして、そのためにはどんな工夫が必要ですか。
2. 日本語の中で、変わった言い方をすると思うのはどんなことですか。なぜ「変だ」と思うのか理由も述べて下さい。
3. ベトナム語にとって、漢字語はどのような重要性を持っていますか。

出されたレポートより、特に簡潔にまとまっていたグエン・クイン・チャン氏のものを一部、抜粋して紹介する。

「私が学生時代、日本のテレビを見た時、ある有名人がお土産を選んでいる VTR が流れて

いた。彼は何も考えずにお土産を選んだため、「てきとう」という文字が画面に出てきた。その時、私は、「てきとう」はこの意味を持っているのだと思い込んだ。それから数ヵ月後、定期試験が来た。問題用紙を読んだら、「適当な答えを選びなさい」と書いてある。試験だから、これは絶対に「どうでもいい答え」という意味じゃないはずだと思った。試験が終わって、辞書を開いて、「適当」というのは一体どんな意味なのか、調べてみた。三省堂 大辞林によると、次の二つの意味がある：

- ①ある状態・目的・要求などにぴったり合っていること。ふさわしいこと。また、そのさま。相当。
- ②その場を何とかつくりよう程度であること。いい加減なこと。また、そのさま。一つの言葉に二つの正反対の意味が備わっているということで、非常に驚いた。このような二つの真逆の意味を持っている言葉は他にどのようなものがあるか、勉強したいと思う」

参考資料 授業資料（抜粋）

## 日本の漢字音

### ●内容に入る前に

次の漢語を読んでみましょう

- ① 外国人 ②人間
- ③ 銀行 ④修行
- ⑤ 文書を送信する ⑥遺跡から文書を発見
- ⑦ 風鈴 ⑧饅頭 頭痛 頭部

### 1、漢字の三要素と漢字の構造

### 2、現代の日本漢字音概説

漢字の字種数は大変多いが、日本語（日本漢字音）として読む限り、その音節は基本的に日本語の音節に収まるものである。現代の日本で使う漢字の音読みの方の特徴をみておきたい。

現代日本漢字音の音節は大きく二種類に区別できる。ひとつは音が一音だけのもの——一音節（「キャ」や「キュ」などの拗音も一音節相当とみなす）。もう一つは音が二音のもの——二音節、である。なお三音節以上の漢字音というものは存在しない。

一音節 ex. 寺ジ、加カ、智チ、理リ 巨キョ など

二音節 ex. 院イン、物ブツ、愛アイ、密ミツ、瞬シュン など

これがもっとも大きな分類で、後者一二音節の方はさらに三種類に分けることができる。

### ①二つある音節の二音節目がイかウのどちらかで終わる漢字音

愛アイ、才サイ、講コウ、秀シュウ など

これらは音韻表記すると、/ai/、/sai/、/kou/となる。aiueo—つまり母音が二つ並んでいるので \_\_\_\_\_ と呼ぶ。

## ②二音節目がンになる漢字音

半ハン、乱ラン、官カン、真シン など

これらを\_\_\_\_\_とよぶ (韻尾というのは、音(節)の末尾、という意である)。

## ③二音節目がク、ツ、チ、キのいずれかのもの。

作サク、各カク、幕マク、達タツ、密ミツ、吉キチ、色シキなど

なぜク、ツ、チ、キか—これらの字はもともと\_\_\_\_\_というグループの字で(後述)、中国語で音節末尾が、t か k か p で終わる字をまとめてそう分類されていたことに由来している。/t/がタ行の音に、/k/がカ行の音へとそれぞれ日本風に訛ったもの(=\_\_\_\_\_ )がク、ツ、チ、キと変化して今に残っているのである。

\* /p/はどうなったか→pは両唇音といい、日本語の音韻でいえば「ふ」あるいは「ぷ」に似ている音であるが、そのうちこの「ふ」は「う」へと変化した。これは遅くとも中古～中世期(平安～鎌倉)にはかわってしまっていて、今に至っている。従って、もともとはこの入声のグループだったのに、音韻変化して「ウ」にかわってしまったので、いまは二重母音字の仲間に入っている字も少なくない。たとえば「匣」、「甲」、など。元々は sap、kap→サフ、カフ→サウ、カウ→ソウ、コウ

以上のように、日本の音読み漢字音は、大きくふたつに一音節と二音節にわけられ、二音節のものはさらに三つのグループに分類できる。二重母音字、撥音字、入声字(厳密には元・入声字)。現代日本の音読み漢字音は、これらのいずれかに当てはまる。以上のように二音節字の二音節目、つまり韻尾というのは、イ、ウ、ン、ク、ツ、チ、キしか基本的にはないのである。音韻変化を起こす例外もあるが、基本的にこれだけしかない。

※漢語熟語のうち、二音節漢字を分類してみよう

### 3、呉音と漢音の由来

①呉音は朝鮮半島経由

②漢音を主流にしようとした理由

③完全に漢音に置き換わらなかった理由

※

「東京」

「1月、2月、3月・・・」「月はじめ」「来月」

# 日本の漢語

## ●内容に入る前に

次に挙げる漢語の意味は？

科学、農学、洋学、洋風、検事、議会、領事、圧政、広告、熱心

## 1、字音による造語

字音二字の結合による二字熟語の生産性が最も高かったのは、幕末から明治にかけての頃だったと言われている。

### 宮島達夫氏の調査

現代雑誌 90 種の用語調査の結果、使用率上位となった 1000 語の二字熟語のうち、902 語は明治以前に存在が確認された。すなわち 98 語が明治以降に造語されたり、借用されたりした可能性が高い。

外来語：少数の造語を含むが、大部分が借用

漢語：二字漢語／少数 ex

三字漢語／少数 ex.

四字以上／ex.

→接辞的な形態素を含む結合形が多い。

\*二字漢語の生産力が衰えた理由

→

例)「防」「耐」

→二字漢語の造語力に限界

単なる二字の結合だけでなく、結合する形態素に意味的、文法的制約があること、字音形態素だけでは、新概念をまかなうことが困難になっている。

これからも造語力を発揮できる字音形態素は、柔軟な結合力をもったものと考えられる。

## 2、訓の働き

明治以前にも、中世以来、漢字による造語は行われていた。

山田孝雄：語が漢字を媒介して漢語に変化する例をしめして、和製漢語のひとつのタイプだとしている。

例)

森岡健二：多くの日本人ははじめに和語で考え、それを和語で言い表しそれから漢字をあて、日本製の漢語を作る。つまり、訓をもっているすべての漢字は、日本人にとって造語の語基になりうる。

鈴木英夫：幕末明治期の新漢語の造語に関して「軸字」という概念を打ち出す。

ABという二字漢語があって、さらにAC、AD、AEというような熟語が造出されるような場合にA-を軸字と呼ぶ。この考え方は、現代の漢字による造語を説明するのにも有効

である。

例) 激写 激白 激録 激談

もちろん、必ずしも訓をもっていなくても接辞的な形態素となって造語される場合の生産力は比較的保持されている。

例) 案 改正案 具体案 予算案  
員 会社員 公務員 特派員  
圏 共産圏 首都圏 通勤圏

### 3、基本語と専門語

鈴木孝夫：訓の働きについて、日本人ならば「水族館」や「水素」の「スイ」が「みず」のことだと知らない人はまずいないが、海外（たとえば英米）などでは aquarium（水族館）や、aquatic（水棲の）、aqua（ラテン語）が「水」だということを理解しているとは限らない。

語彙体系における専門語と一般語についていえば、もちろん両者の隔たりが小さい方がよいはずである。その隔たりを埋める役目として日本語では「漢字」があると考えられる。

我々が日常つかっている基本的な言葉はおおむね和語によって占められている。しかし、その意味を細分化したり、厳密に表現しようとする、漢語を必要とすることはよくある。

例) 休む・・・休暇、休息、休憩

このような一面からいうのであれば、確かに、漢字の訓読みをやめたり、漢字そのものを廃止したりすると、日本語の語彙体系を崩すことになるという指摘も誤りとはいえない。

### 4、造語の将来

漢語による造語力に限界が見えて、外来語が増えてきていることはおそらく間違いない。中には日本で合成されたいわゆる和製漢語もある。

例) アポイントシステム イラストマップ エアチェック オーダーメイド ガードマン

自立して単語としては使われないが、もっぱら他の語と結合する機能ををもつものもある。

例) カー

    ガール

安定した外来語には、外来語とだけでなく、漢語や和語と結合する力をもっているものもある。

例) タウン誌 ドラフト制 胃カメラ 逆コース 大リーグ タレント候補

将来どのような造語の可能性があるか？

### 5、造語の最盛期—文明開化

#### ●和製漢語